

養豚農家における食品残さの活用状況について
(平成23年8月アンケート調査集計結果)

1 リキッドフィーディングの利用実態について

都道府県	導入戸数	飼養頭数		導入予定戸数	備考
		母豚	肥育豚		
北海道	2	2,069	37,717	0	
東北	6	6,680	18,800	0	
関東	38	2,335	56,760	0	
北陸	5	140	2,182	0	
東海	10	3,837	34,074	0	
近畿	3	0	4,900	0	
中四国	5	1,750	14,200	0	
九州	22	3,047	137,726	0	
沖縄	0	0	0	0	
合計	91	19,858	306,359	0	

2 食品残さを利用する上での課題

① 原料の安定的な確保（量、質等）	19 件
② 飼養管理技術（飼料設計、肉質への影響等）	10 件
③ 初期設備の投資及び保守経費	7 件
③ 保存性の確保（原料、飼料）	7 件
⑤ 飼料化技術	6 件
⑥ 食品残さの安全性の確保（異物の混入等）	5 件
⑦ 輸送・飼料化コスト	4 件
⑧ 労力（運搬、管理等のハンドリング等）	3 件
⑧ 許認可（廃棄物処理法、飼料安全法等）	3 件
⑩ 畜産物の販路確保	2 件
⑪ その他	9 件

エコフィード（食品残さの飼料化）の生産拡大と利用の促進

【エコフィード緊急増産対策事業

67（100）百万円】

事業のポイント

TMRセンター等における食品残さの利用拡大の推進、食品関連事業者と畜産農家等とのマッチングのための情報整備、地域の未利用資源の飼料化のための実証試験等を支援します。

<背景/課題>

エコフィードを生産・利用するためには、食品関連事業者、飼料化業者、畜産農家等の関係者が地域的又は広域的な連携を図るとともに、量的・質的に安定したエコフィードの生産・供給体制を構築する必要があります。

(エコフィードとは)

エコフィードとは、食品残さ等を利用して製造された飼料です。エコフィードの利用は、食品リサイクルによる資源の有効利用のみならず、飼料自給率の向上等を図る上で重要な取組です。

政策目標

飼料自給率の向上（26%（平成20年度）→38%（平成32年度））

<内容>

1 事業内容

(1) 地域未利用資源の利用拡大

畜産農家等が共同で使用するTMRセンター及び食品残さ飼料化業者等が地域で発生する食品残さ（食品製造残さ、農場残さ等）の収集・利用の拡大や飼料作物（牧草等）の生産により混合飼料を製造する取組に対し支援します。

【補助率：定額、1/2】

(2) マッチング・システムの構築

地域において、食品産業（排出側）及び畜産業（利用側）等が、お互いの情報をマッチングするためのシステムの構築を支援します。

【補助率：定額】

(3) 地域未利用資源飼料化確立の支援

マッチングシステムの情報等を活用し、食品残さの飼料化を実現するために必要な実証試験等を支援します。

【補助率：定額】

2 事業実施主体

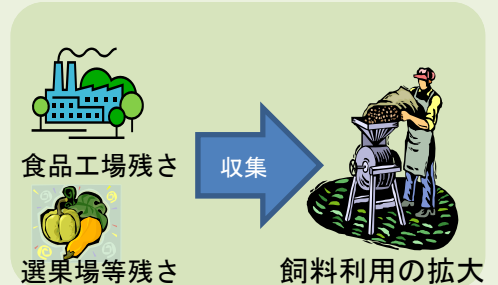
民間団体等

[担当課：生産局畜産部畜産振興課（03-3591-6745（直））]

飼料増産総合対策事業のうち、エコフィード緊急増産対策事業

1 地域未利用資源の利用拡大

TMRセンター及び食品残さ飼料化業者において、地域で発生する食品残さ(食品製造残さ、農場残さ等)の収集や飼料作物(牧草等)の生産により混合飼料を製造する取組に対し支援します。



- ・食品残さの活用：食品残さの利用拡大量に応じ助成（大家畜：100トン/年拡大で145万円以内等）
- ・飼料作物の生産：飼料作物の作付拡大面積に応じ助成（1ha/年あたり4万7千円以内）
- ・集荷体制の整備：食品残さを飼料利用するための機材のリース量の1/2以内を、最大3年間助成

2 マッチング・システムの構築

地域において、食品産業(排出側)及び畜産業(利用側)等が、お互いの情報をマッチングするためのシステムの構築を支援します。



3 地域未利用資源飼料化確立の支援

マッチングシステムの情報等を活用し、食品残さの飼料化を実現するために必要な実証試験等を支援します。

地域情報の分析

飼料化及び給与実証

畜産物の評価



エコフィード利用畜産物認証制度

平成23年5月30日スタート



～資源をムダにしない目印です～



エコフィードとは・・・

- “環境にやさしい(ecological)”や“節約する(economical)”等を意味する“**エコ(eco)**”と飼料を意味する“**フィード(feed)**”を併せた造語です。
食品循環資源を原料にして加工処理されたリサイクル飼料です。

～食品循環資源～

- ①食品製造副産物：酒粕、焼酎粕、醤油粕、豆腐粕、果汁粕パン屑等、食品の製造過程で得られる副産物や野菜カット屑等の加工屑
- ②余剰食品：売れ残りのパン、麺、弁当、総菜等、食品として製造された後、利用されなかったもの
- ③調理残さ等：調理に伴い発生する残さ など

エコフィード認証制度とは・・・

- 飼料中の食品循環資源の利用率及び飼料中の栄養成分の把握、飼料化を行う関連業者の連携及び飼料化工程管理等について、一定の基準を満たした飼料を「エコフィード」として認証する制度です。

※ エコフィード認証は「(社)日本科学飼料協会」が実施しています。詳細は(社)日本科学飼料協会のHP (<http://kashikyo.lin.gr.jp/ecofeed/eco.html>)をご覧ください。

エコフィード**利用畜産物**認証制度とは・・・

- 認証されたエコフィードを給与した家畜から得られた畜産物及びその加工食品について、一定の基準を満たしたものを「エコフィード利用畜産物」として認証する制度です。

エコフィード利用畜産物認証の仕組み



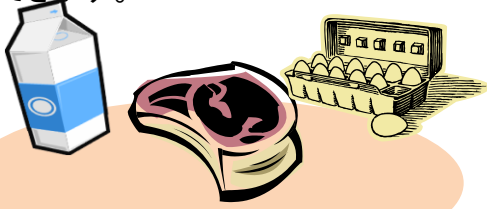
- 認証を受けようとする申請者は、認証を受けようとする商品等の流通ルート~~を~~を特定し、申請書に必要書類を添付して申請します。
- 認証機関（(社)中央畜産会）にて、有識者等を委員とする運営委員会を設置し、認証基準（※）がクリアされているかを審査します。

※ 認証基準

- ・家畜に給与する認証エコフィードの給与計画が、これまでに蓄積された知見や給与試験の結果等に照らし妥当であると判断できるとともに、当該給与計画に基づき給与されていることが確認できること
- ・認証を受けようとする商品ごとに他の商品と区分され、生産から流通、販売に至るまでの間の流通ルートが特定されていることが確認できること 等

エコフィード利用畜産物が認証されると・・・

- エコフィード利用畜産物及び当該エコフィード利用畜産物を利用した商品の容器、包装、納品伝票、商品カタログその他の当該商品に係る書類に、エコフィード利用畜産物認証マークを貼付することができます。



畜産物



エコフィード利用畜産物認証マーク



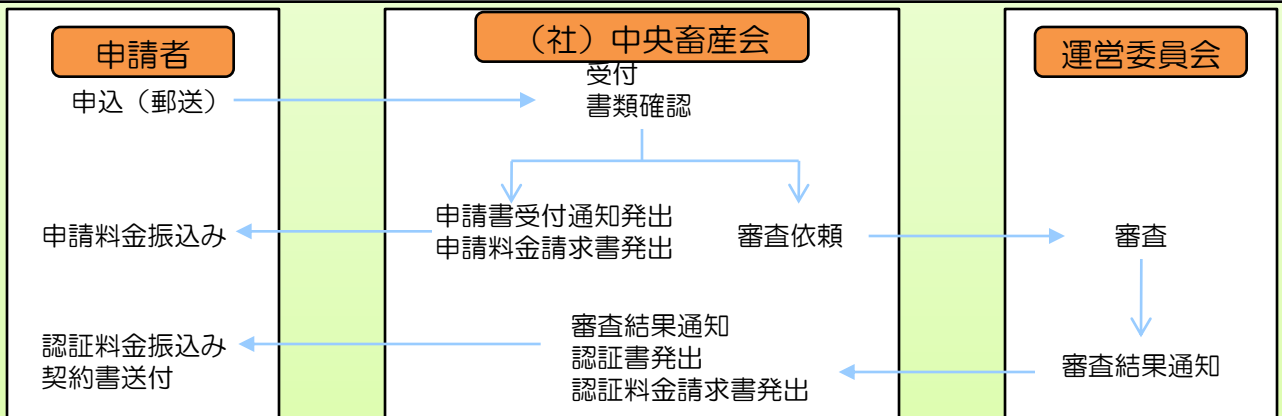
加工食品

期待される効果は・・・

- 環境に配慮した生産活動を応援します**
貴重な食料資源をムダなく有効活用する取組みをアピールすることができます。
※認証された「エコフィード利用畜産物」は、中央畜産会「エコフィード情報」のサイト上でご紹介します。
- 食料自給率向上に貢献します**
使用されなかった資源をリサイクルして循環することで、日本の食料自給率と飼料の自給率の向上に貢献します。
- 食品リサイクル法に基づく取組みを効果的に後押しします**
認証マークが広く消費者の皆さまに理解されることで、食品資源のリサイクル等再生利用計画に基づく活動の効果的な実施を後押しします。

エコフィード利用畜産物認証申請の方法

申請者 : 畜産物若しくはその加工食品を販売する方又は製造・販売を委託する方
申請先 : 社団法人中央畜産会（事業第一統括部）へ郵送
申請に必要な書類 : エコフィード利用畜産物の概要、家畜に給与する認証エコフィードの概要、
認証エコフィードの家畜への給与計画、商品概要、商品の流通・販売の特定状況
申請料金 : 21,000円（税込）
認証料金 : 52,500円（税込） ※1商品追加毎に10,500円（税込）追加
更新料金 : 31,500円（税込） ※1商品追加毎に3,150円（税込）追加



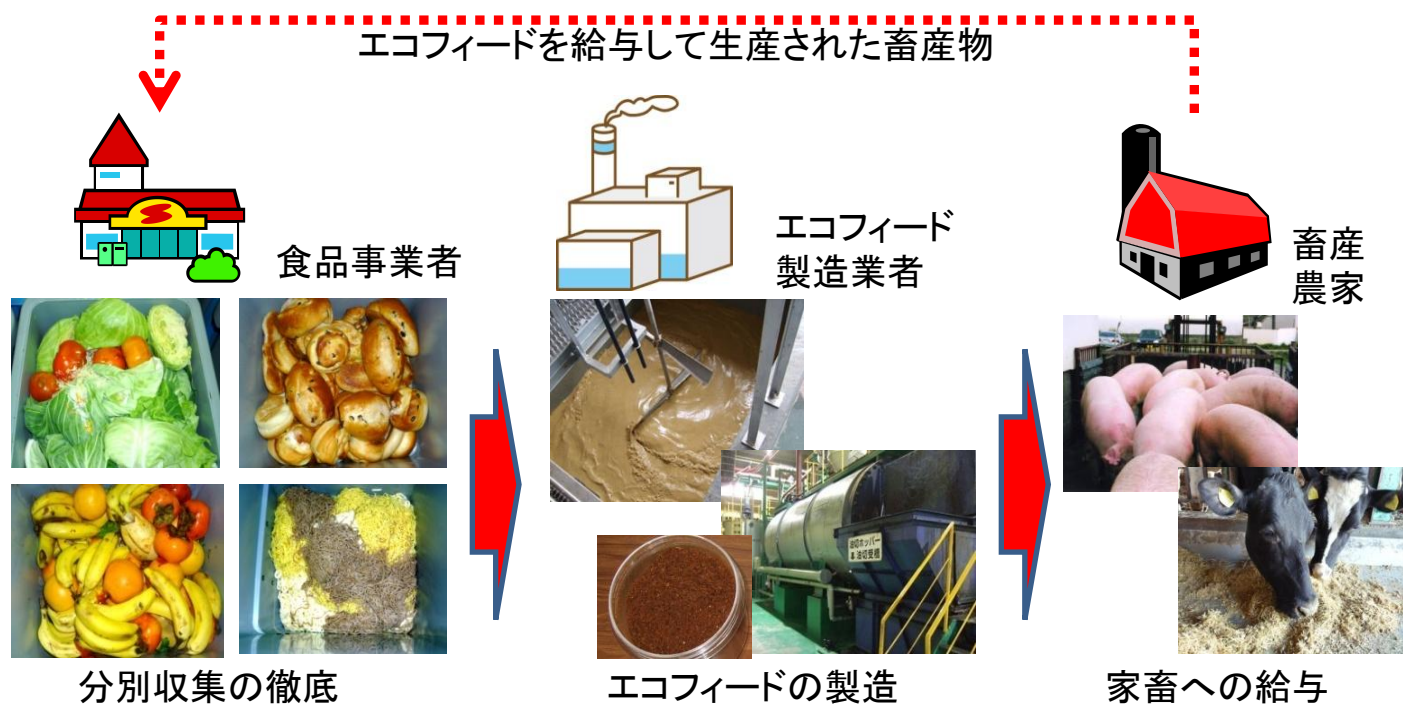
詳しい内容、申請の具体的な手続きについては（社）中央畜産会のHPをご参照ください。

（ <http://ecofeed.lin.gr.jp/> ）

エコフィードの利用促進は 食品循環資源の有効利用と 食料自給率の向上に貢献します！

- 日本では、食品製造や流通の過程で、大量の食品が廃棄されており、資源として有効利用できるものの、これらの食品循環資源を十分に再利用していない実状にあります。
- 一方、日本の畜産の現状として、家畜飼料の国内自給率は25%であり、その調達の多くは海外に頼っています。しかし、近年は、バイオエタノール向けの穀物需要の拡大や新興国の畜産需要の増大等を背景として国際的な穀物需給がひっ迫基調にあり、穀物価格の高騰をもたらせています。
国内の畜産農家にとって、生産費の約50%を占める飼料価格の高騰は、安定的に畜産物を消費者へ供給していく上で、大きな課題となっています。
- このような、食品リサイクルの課題と畜産の課題を解決する取り組みとして、食品循環資源を家畜に給与する取り組みが行われています。

エコフィードの利用等のイメージ



社団法人 中央畜産会

〒101-0021

東京都千代田区外神田2-16-2 第2ディーアイシービル9F

お問い合わせは ☎ 事業第一統括部(支援・調査研究)

Tel:03-6206-0843 Fax:03-5289-0890

e-Mail: ecofeed@lin.sec.gr.jp